

# 424公的病院 「再編必要」との 厚生労働省公表に関する市の見解

## 今後の郡上市の医療を 共に考えよう

9月27日発行された各新聞紙上に「厚生労働省は26日、全国1455の公立病院や日赤などの公的病院のうち、診療実績が乏しく再編・統合の議論が必要と判断した424の病院名を初めて公表」との報道がされました。

た、病院が将来担うべき役割や、それに必要なダウンサイジング・機能分化等の方向性を機械的に求めるものでもありません。」とのコメントを追加発表されました。

突然のマスコミ報道がありましたので、市民のみなさんには不安や心配をおかけしましたが、現時点での市の方針として「**県北西部地域医療センター国保白鳥病院の統廃合**」の考えはありませんので、この点についてご承知おきください。

◇近い将来に向けて、市ではすでに話し合いを進めています！

### 〈第2回〉郡上市地域医療関係機関懇談会を開催

この報道の翌日、同省から「今回の取り組みは、一定の条件を設定して急性期等に関する医療機能について分析し、各医療機関が担う急性期機能やそのために必要な病床数等について再検証をお願いするもので、必ずしも医療機関そのものの統廃合を求めるものではありません。ま

一方、市の人口減少が加速し、これに伴い医療の面では患者数が減少していくことが想定されます。将来の経営状態なども考慮した外来・入院体制の在り方など、白鳥病院のみならず郡上市全体として医療提供の最適化を検討していかなければなりません。



▲市内公立及び民間病院長を交えた懇談会の様子

市では、昨年より岐阜県健康福祉部医療整備課職員と同席のもと、郡上市医師会長、市長、副市長、市内6医療機関の院長及び病院事務長が参加し、郡上の医療体制に関して検討する懇談会を立ち上げています。

8月28日に開催された、第2回目の懇談会では、「高齢化に伴う認知症の課題に関して、介護施設や一般病院が支えられないところを精神科も担っていく」「人口減少は待ったなし、医療体制の方向性について、密に話し合いを進めてほしい」、「各医療機関が病院機能のウェイトをどこにおくか考えておくべきである」「限られた資源で出来ることから公立民間が連携を実践していく」「医師・看護師・介護士・薬剤師等の医療専門職の人

材確保が必要」など活発な意見が交わされました。こうした市内の議論に加え、今後、中濃医療圏の「**地域医療構想調整会議**」でも検討が重ねられていくこととなります。

今回の報道を機会に、市民のみなさんにも地域医療に関心を持っていただきたいと思えます。

郡上市の地域医療の目指す姿は、**市民が安心して医療や介護支援が受けられ、郡上の地で最期を迎えられる**ことであり、そのためには各医療機関の役割分担と連携による「**地域完結型**」の体制を実現していかなければなりません。

市民の手によって支える  
地域医療 市民にとって  
望ましい医療体制とは！

郡上市の地域医療に関心を持ち、医療関係者と語り合いながら、地域の医療を守り育てようとして、平成26年度に発足した「**地域医療を守るためのガヤガヤ会議**」という市民活動が、現在広がっています。

郡上市の地域医療の現状や課題を知り、市民同士で意見交換を促されていますので、ぜひご参加ください。

### 医療機関の連携イメージ

